

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称：有限会社 エフワイエル	所在地：390-0867 長野県松本市蟻ヶ崎台 24-3
評価実施期間：令和3年5月12日から令和3年9月24日 *契約日から評価結果報告会日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 050542 061163 B25108	

2 福祉サービス事業者情報（令和3年5月現在）

事業所名：ドン・ボスコ保育園	種別：保育所
代表者氏名：園長 大槻英美	定員（利用者数）：160名（137名）
設置主体：社会福祉法人カリタスの園 経営主体：社会福祉法人カリタスの園	開設年月日：昭和31年6月
所在地：〒390-0803 長野県松本市元町 1-2-20	
電話番号：0263-35-5511	FAX 番号：0263-35-8648
ホームページアドレス： http:// www.m-caritas.jp/welfare/15/welcome.html	
職員数	常勤職員：19名 非常勤職員：27名
職員内訳等	保育士：37名 保育補助：1名 看護師：2名 調理員等：5名 常勤職員の平均年齢：44歳 平均在職年数：8年
施設・設備の概要等	乳児室：1室 ほふく室：1室 遊戯室：1室 便所：3室 保育室：9室 医務室：1室 調理室：1室 事務室：1室 職員休息室：1室 調乳室：1室 駐車場：未満児用、以上児用2か所 屋外遊具：砂場、ブランコ、総合遊具、移動式鉄棒、雲梯 ダブルスライダー、滑り台

3 理念・基本方針

○ 理念（保育目標）

松本ドン・ボスコ保育園は、キリストの愛とドン・ボスコの精神に基づき、温もりのある家庭的な雰囲気の中で愛を育み支えあい、一人ひとりが愛されていることを実感し、笑顔と喜びがあふれる保育園です。

アルプスの自然の恵みに育まれた子ども達は、すべてのものの命を大切にし、人を愛する喜びを知り、心身ともにたくましく生きる力を養いながら、感謝の心、やさしい心を持った子どもに成長します。

家庭・地域の人々との信頼関係を築き、助け合いながら、すべての人が安心して生きられる平和と希望にみちた温かい社会を目指します。

○ 基本方針

1) わたしたちはドン・ボスコの教育法に基づき、「共にいる」(アッシステンツァ)ということをお大切に、子ども達のありのままを受け入れ、共感し、忍耐強く温かい眼差しで子ども達に寄り添います。

2) 職員間の連携と信頼関係のうちに、謙虚な心でこころざしを同じくし、互いに支え高めあいながら保育の充実を図ります。

3) 子どもによりよい心身の成長のため、保護者に耳を傾け、その思いに寄り添い、サポートします。

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

カトリックの保育施設として

・一人ひとりを大切にする、思いやりの心を育てる、祈る心を大切にしています。

そのため、年長児全員による鼓笛、聖書劇、年長男児によるクリスマス会での和太鼓、年長女児による運動会でのバトン、マリア祭、子ども主体による夏祭り、運動会、園外保育(年2回)を提供しています。

また、各学年の保育参観にむけて、年中児はさつま芋、年長児はジャガイモの植え付けを計画的に行い、クッキングに使用します。

外部講師による体操指導(3歳以上児対象・月2回)、課外教室としての体操教室、ピアノ教室も行っています。

5 第三者評価の受審状況

受審回数(前回の受審時期)	2回(平成22年3月)
---------------	-------------

6 評価結果総評(利用者調査結果を含む。)

国のガイドラインに基づき長野県の各サービス分野の評価基準等が改訂され、評価の判断基準も異なってきたので、初めにそのことについて説明いたします。

評価細目(別添1、2)に対する判断基準は以下の通りとなっています。

a: よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態

b: aに至らない状況=多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態

c: b以上の取組みとなることを期待する状態

つまり、「ある、ない」や「やっている、やっていない」という外的基準ではなく、やっている事の内容を評価員・評価機関が判断してa・b・cを決定しています。

そのため、当評価機関としてはaの場合は取り組み状況、b・cの場合は取り組み状況と検討課題を記載しています。

そして、各評価細目や利用者調査の内容を長期的、多面的、根本的に考え、事業所の全体像を把握して総評を決定・作成しています。

なお、松本市の場合、子ども子育て支援事業等により、以下の手厚い支援があります。

- ・1歳児の保育士配置は国基準を上回る園児3人に1人の配置

- ・アレルギー食材の除去のみでなく、代替食の提供

- ・文化事業補助金を活用しての、子どもの情操教育が可能

- ・公立私立を問わず、教育委員会による幼保小一体での充実した研修計画の実施

- ・園庭の芝生化補助金で、安全な子ども達の運動・体力作りが可能

◇ 特に良いと思う点

○ 取り組みの効果が視える

子ども達が日々のお祈りと活動を通して、優しい心、思いやり、感謝の心、諦めない気持ち、愛される子どもへと成長しているドン・ボスコ保育園はカトリックの保育施設で、ドン・ボスコの精神とその教育法に基づき、心身ともに健全でみなに愛し愛される子どもに育つように導いている。

生活のなかで子どもが自ら進んで行った行動、人の役に立つ行動等が視られたときは、年齢に応じて友達の前で褒めたり、朝礼、終礼会の時に紹介したりと、クラスの子どものも担当職員も認め、クラス日誌や個別記録にも記載して、職員同士でも共有している。

このため、園での活動が子どもにとっては自信となり、自己肯定感、人間性、主体性を高める最善の方策となり、その成果を確認することは容易である。

職員の資質向上については理念において、「人格の円熟、専門的な知識と技術の向上」と謳い、研修は外部研修年 24 回、内部研修年 12 回と、重要事項説明書に定めて取り組んでいる。

その外部研修は様々な職種の職員が参加し、新任職員研修やキャリアアップ研修等も用意されており、参加者はその報告と実践内容を発表し、園全体での共有化を図り、内部研修では職員会での全体研修、各クラス会での研修もある。

それらはテーマを決めてのものや、職員の希望のものなどがあり、個々の職員、担当に応じたスキルアップが図れるものとなっている。

これらきめ細かな研修の他、ドン・ボスコ精神を学ぶとともに、保育の知識と技術を高めることで、子どもにとってより効果的な保育の提供となり、子どもの育ちに効果を上げている。

また、保育士の自己チェックリストや日々の振り返りも行うので、子どもだけでなく、職員の成長も楽しみである。

なお、今年度の年間保育目標は、「神様のお恵みの中であきらめないで最後までやり遂げる子ども」となっている。

保育内容についても、全体的な計画、年間指導計画に連動した月案に基づいて実践した保育について、クラス会議において指導計画のねらいを評価、反省し、次月の計画を作成して実践へと進めている。

その計画された月案は前月の子どもの姿、ねらい、養護、教育、食育、職員との連携、家庭との連携、宗教等、わかりやすい月案となっている。

また、前年度の活動計画の反省、評価も園内研修にて行い、達成度を数値で表し、理由、課題を具体的に上げ、次年度への改善としている。

また、ドン・ボスコ保育園の理念や保育方針、職員のミッション、園児のミッションも重要事項説明書に記載し、利用の際には丁寧に説明するとともに、園だよりでの度々の掲載で内容の周知、浸透に努めている。

結果として、利用者アンケートにおいては 8 割近くの方がその内容を知っており、そのうちの 9 割近くの方が理解し、共感していると答えている。

このことは保護者の園に対する信頼感、安心感の表れと理解する。

また、地域に向けても積極的に取り組み、HP はもとより、毎月地域へ回覧依頼する園だよりは保護者向けとは別に作成し、当然、理念、方針について園の姿勢を発信しているのは、理念にある地域との信頼関係の構築への取り組みであろう。

保育実践の振り返り、自己評価、園の評価を経た全体的な計画の評価、見直しを進め、毎年の全体的な計画、各保育計画が年々向上していくことが想像できる。

現在、コロナ禍のため様々な制約があり活動は狭まっているが、暗いと嘆くのではなく、進んで明かりをつける新たな取り組みもまもなく始まると思われる。

○ すぐやる課の存在が視える

ドン・ボスコ保育園の入り口と園庭にはマリア像が設置され、心を和ませる草花が植えられており、朝夕の送迎でモチベーションが上がるという保護者もいて好評である。

また、玄関に入るとお散歩マップが目に入る。

年齢に応じて歩く力を育て、子どもたちが園外に出ることで、多くの環境に触れ、体力づくり、感性の育成など、多くの目的を意図したものと思われる。

就学に向けての右側歩行や横断歩道、押しボタン式や感知式の信号、避難場所までの距離など、年齢ごとの年間散歩計画へと進めたり、園外保育のねらいなども保護者との情報の共有を図りながら両方で体力づくりを意識したものへと更に進めることも容易と思われる。

そして、公園等のトイレの洋式、和式、水道の有無なども加えたい。

また、園内は高い樹木や緑地スペースが少ないこともあり、子どもの安全を預かる立場として、漆やきのこ、とげなどのある有害な植物、蛇やアメシロなどの昆虫も、お散歩マップを通して子どもも職員も危険への意識を高めるものへとつなげることも容易であろう。

デイリープログラムは4歳児、5歳児はともに午睡がなく同じである。

また、どのクラスにも大きな時計、黒板、ピアノ等が設置されている。

園内での養護・保育は教育的配慮を含めた環境設定、ゾーン配置を更に進めるなど、乳児については子どもの様子を見て次の遊びの展開を手立てしたり、目線にも配慮した環境作り、以上児は各場面の切り替えに応じてピアノを弾くなど、子ども達が自発的に次の場面にスムーズに移れるようにする配慮も可能と思われる。年長ともなれば、園長、調理員へ出欠席の報告を行ったり、食缶は無理でも担任と一緒に食器等の運搬の手伝い、盛り付け、教室や廊下の掃除など、自立と自律を育てることも更に可能であろう。特に、黒板の活用は期待したいところである。

各種行事を行うと、写真やコメントを当日編集して夕方には玄関へ張出し、子どもの姿を保護者に知らせている。

また、各クラス入り口にある大きなホワイトボードに、連絡事項や当日の活動を記載している。

それは理念に謳う、「保護者との信頼関係と、耳を傾け思いに寄り添う」の実践と理解する。

0、1歳児は連絡帳を通してお互いが把握することができるが、それ以外の年齢児は連絡帳やそれに代わるものがなく、忙しい時間帯の保護者が子どもの様子を知る機会は送迎時の担当保育士との会話の機会をいかに得るかにかかっている。

特に、長時間保育の利用者が多いなか、担当保育士に会えない環境の保護者もいると推測できる。

1日の全体的な活動はホワイトボードで知ることが可能であるが、何よりも自分の子どものその日の活動の様子、頑張ったこと、成長できたことなど、保護者と保育士がともに喜びあえる手立てを期待したい。

日々子どもに関わっている保育士に比べて、自分の子どもだけを見ている保護者にとっては驚くほど発達の早い成長に気づかないものである。

そのため、保育士にとって当たり前のことでも、保護者は知らないことも多いと意識して、ホワイトボードやクラス便りにはエピソード記述などを取り入れることも可能であろう。

子どもの姿を肯定的にとらえるエピソード記述の導入で、子どもを見る、導く、伝える、子どもを理解する事の繰り返しで、子どもを見る目を豊かにして専門性も更に高まると思われる。

また、日々の子どもの姿を文書化することで、この記憶を風化させない取り組みの繰り返しは、子どもの心理状態の理解力も高まり、課題を持つ子どもへの対応も容易となってくる。

事故、ヒヤリハット、意見・苦情などの各種書類も内容、対応だけでなく、保育士が原因であれば注意するだけでなく、その後の保育士の対応が良くなっているか、子どもが原因であれば対象児の発生原因は治ったか、施設面でいえば原因が再発する可能性はないかなど、その後の変化を評価するなど、再発の防止や意識の高まりが期待できる仕組みへと発展させることは必要と思われる。

限られた資源、環境をいかに有効に使い、効果を上げるかは、専門職の腕の見せ所といえる。

と、評価したが、報告会においては評価プロセスでの会話やこれらの事について多くの事に手が加えられており、改善への取り組みは速やかである。

◇ 特に改善する必要があると思う点

○ 視えてくるまで考える

本来、保育は楽しいものである。

しかし、家庭保育と保育所保育は、明らかに異なる。

保育所保育には、子どもとはどのようなものなのかを理解したうえで、多くの子どもの姿を見る力と、その保育を理論的に説明する力が求められる。

そのため、理論的な根拠を持って保育を言語化することや、保育の連続性のとらえ方も必要であり、また、保育所保育は子どもと保育士との相互の関係によって展開されるので、日々の記録は当然重要といえる。

また、日々の保育に流されることなく、子ども、保護者、保育士、園の関係性の意識を変えることも一つである。

一般企業では常に商品の開発、品質向上に努め、消費者に自社の優位性を周知している。

子ども、保護者は保育サービスの消費者であり、ドン・ボスコ保育園の商品は何かといえば、園舎、園庭、保育士など、全てがセットでの商品であると意識したい。

そして、すべての福祉サービスは地産地消なのである。

実施している保育計画のPDCAと同様に、園での各種取り組みのPDCAについての取り組みも期待したい。

優れている点に載せたように検討課題が視えれば速やかなアクションがあり、質の向上への意欲的な風土も理解できるので、定期的な事業評価など、自らの速やかな課題発見につながる、更に高みを目指す取り組みを期待したい。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目（別添1）

内容評価項目（別添2）

8 利用者調査の結果

アンケート方式（別添3-1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

今回、福祉サービス第三者評価を受審し、改めて自園の行っている福祉サービスを見直すことができたことは大変良かったと思っております。

第三者の立場から評価されることで多くの気づきを得る機会となり、具体的な内容や改善点など明確にされたことで、今後の仕組みづくりとその実践に力を注いでいきたいと思っております。

利用者アンケートにおいても多くの良い評価を頂いたことに感謝すると共に、多くのご意見から気づかせて頂いた内容についても、一つひとつ職員全体で課題を共有しながらそれらに取り組み、みなさまから愛される質の高い保育の提供を図って参りたいと思っております。